

令和6年の厄年 (2024)

	男性	女性
前厄	平成13年 (24歳) 昭和59年 (41歳) 昭和40年 (60歳)	平成19年 (18歳) 平成5年 (32歳) 平成元年 (36歳) 昭和40年 (60歳)
本厄	平成12年 (25歳) 昭和58年 (42歳) 昭和39年 (61歳)	平成18年 (19歳) 平成4年 (33歳) 昭和63年 (37歳) 昭和39年 (61歳)
後厄	平成11年 (26歳) 昭和57年 (43歳) 昭和38年 (62歳)	平成17年 (20歳) 平成3年 (34歳) 昭和62年 (38歳) 昭和38年 (62歳)
幼児	令和4年生・令和3年生・令和2年生 平成24年 (十三詣り)	

お札・授物

- 2千円、木札 小・お守り・福豆・福引
- 3千円、木札 中・お守り・福豆
供物・お供酒・福引
- 5千円、木札 大・お守り・福豆
供物 お供酒、福引
- 1万円、木札特大・お守り・福豆
供物お供酒、福引

※1万円のお札申込者は、豆まきできません。希望者は受付に申し出て下さい！

★福引はずれなし！豪華賞品



昭和元三大師節分会
平成二十四年より開催 節分とは、季節の分かれ目の意味で、元々は「立春」「立夏」「立秋」「立冬」のそれぞれの前日をさしていた。特に冬から春になる時期を一年の境とし、立春の前日をさすようになったのが由来である。
元三大師(角大師) 正式名、慈恵大師良源、第十八代天台座主で、正月三日に入寂し元三大師と呼ばれるようになった日本のおみくじの創始者であり、**角大師は厄災を祓う護符です。**世に疫病が流れ、法力をもって疫病神を退散させたのです。鏡の前で静かに観念三昧に入られました。すると不思議なことに、骨ばかりの恐ろしい鬼の姿になりました。降魔となったのでした。鏡の前で静かにお札を貼り付け、その絵を版木に彫りおこし、お札を刷って、お大師様自らが開眼の加持をされました。「この札を人々に配布して戸口に貼り付けるようにすれば、邪魔は近づくはず、疫病はもとより一切の厄災から逃れられるであろう」と弟子たちに示されました。これ以来、元三大師ゆかりの寺院では、「このお札を「角大師(つのだいし)」と称して、毎年の新年に新しいお札を玄関や家の戸口に貼ることで、病気はもとよりあらゆる厄災から逃れられる護符として人々に頒けられています。」と弟子たちに示されています。
護摩とは、護摩壇を設け護摩木を焚いて息災・増益・降伏・敬愛など本尊に祈ること、智慧の炎で煩惱焼き消す密教の修法である。
鬼法楽(鬼おどり) 関東唯一
京都の廬山寺(宮中の仏事を司る寺で紫式部邸宅跡)に古くから伝えられる伝統行事であり、許可を頂き伝統を継ぐ事也

